

ステロイド点眼とは？その③(最終回)

今回は三号続いたステロイド点眼解説の最終回です。Vol.23-24をお読みでない方は、そちらに目を通してからお読になってくださいな<(_ _)>。エピソード3：こんな方もありますよね「副作用があるとは聞いたけど、目も赤いし目は薬を使ってみなきゃ！」=今回処方された点眼を試みる=「・・・。しみるー！イッターー!!ダメダメ、痛いからきつと副作用で緑内障になっちゃうわ！もう二度とこの目薬は使えないわね！」詳細を把握した上で、こうしたエピソードを読むと可笑しいかもしれません。しかし、患者さんは具合が悪くて治そうと必死です。適切な説明がなければ誤解が生じ、それが発展的な妄想となり空想が拡がっても患者さんだけを責めることはできないのかもしれない。前回号で紹介したエピソード1・2については、私は副作用のリスクを踏まえた上で治療上ステロイドが必要と判断しています。ステロイドを使用しないと元々の御病気が治らない可能性が高いので、眼科を受診した意義が「??」となってしまうかもしれません。

つまり、副作用については経過観察の診察時に確認しながら治療するべきなのです。またエピソード3についてですが、点眼直後の感触が「しみる」「痛い」感じの事が重篤な副作用となる事は少なく、逆に点眼直後の刺激症状が少ない薬ほど恐怖感が無いために怖い事が多いのです。昭和の時代によく使われていたオルガドロン(一般名でデキサメタゾン)と

いう目薬はいわゆる「強いタイプ」のステロイド点眼ですが、点眼時の刺激症状が少ないのです。それに比較するとリンデロン(一般名でベタメサゾン)という点眼はステロイドの強さはオルガドロンとほぼ同等なのですが、点眼時の刺激症状が強一般的に「しみる」事が多いと言われています。単純に考えれば「しめない方が良いのでは？」と思いがちですが、患者さんに「強いステロイドの副作用を忘れずにいてもらう」ためには「しみる点眼の方が実は好都合」という事で、現代の日本の眼科医療ではデキサメタゾンの点眼が使用される頻度はとても少なくなっています。また「弱いタイプ」のステロイド点眼であるフルメトロンやオドメール(一般名でフルオロメトロン)も刺激症状が少ない薬です。ステロイドを含まない弱めな花粉症治療薬である「リボスチン」や「ザジテン」は逆にしみる感じがしますが、怖い薬はむしろフルメトロンなのです。患者さんの自覚症状での判断が誤る場合もあるので注意して頂けたらと思います。

今回の一連のフジタガンカニュースではステロイド点眼について解説をしてみました。難しい内容が多かったと思いますが、ステロイド使用時のポイントは

- ① 定期診察は必須
- ② 副作用を恐れすぎない

という事になります。皆様、お忘れなく！これはステロイドに限ったことではありませんが「自覚症状のみ」で病状や薬剤の効果・副作用を自己判定することは大変危険(多くの方がそういう基準で判定をされるのは当然の事なのですが…)です。実はこの事が、今回の一連のガンカニュースで僕が皆さんにお伝えしたい一番大切な事なのかもしれません…。



代表的ステロイド点眼⑦
0.1%オルガドロン



代表的ステロイド点眼⑤
0.02%ビジュアリン



代表的ステロイド点眼⑥
0.02%サンテゾーン

右の表は当院で使用しているステロイド点眼の分類表です。ご自分の処方内容の中にこれらの点眼があれば、ステロイド成分を含んだ点眼を使用しているという事になります。強さについてはあくまでも「目安」ですが、おおよそこうした基準で考えて頂ければ良いと思いますので参考にして下さい。また、表はあくまでも当院処方薬の薬剤について説明したものです。例えばオドメールはフルメトロンのジェネリック医薬品に相当し0.1%・0.05%・0.02%など複数の濃度で発売されています。また、ジェネリック医薬品の種類も豊富で製薬会社毎に名称が変わるため①ピトス②フルオロメトロン③フルオメソロンなども全て同等のジェネリック医薬品という事になってしまふのです(^_^;)。例えば基本的に当院でのオドメールは0.02%しか処方しませんし、フルメトロンは0.1%しか処方しません。すなわち「フルメトロン>オドメール」という力関係は固定されています。しかし他院では0.02%のフルメトロンや0.1%のオドメールが処方される場合もあります。もちろん、0.02%のフルメトロンと0.1%のオドメールを比較すれば「オドメール>フルメトロン」という力関係の逆転現象がおきてしまいます。当院は父の代からの老舗の眼科なためか、他院で病状が好転せずにセカンドルック的に受診される患者さんの比率が高い眼科です。既に他院での治療がされているケースでは、こうした点眼薬の効果の強弱を把握しながら次の治療を考えなければなりませんので、かなり話が複雑かつ専門的になる事が多いのです。さすがに患者さんにすべてを了解しろとは言えませんが、せめて「ステロイドは薬の種類が多くて力関係が複雑な構造になっているんだ」という事を知っておいて頂けると、僕としてはとても仕事が進めやすいのです。

今回のフジタガンカニュースは如何でしたでしょうか？この3号続きの一連については、個人的に非常に重要な内容を皆さんに提供できたと自負しております。僕の元々の専門分野はドライアイ・感染性結膜炎・アレルギー性結膜炎・角膜疾患など、眼科の世界では「前眼部」と呼ばれるジャンルです。そしてこの分野の専門家は、他の専門家に比べてステロイド点眼を使用する機会が多いたが特徴です。であればこそ、ステロイドについての自分の考え方を説明できた今回の

のガンカニュースは藤田聡にとって渾身の作品であろうと思います。

今後とも「怖がり過ぎず、侮らず」ステロイドを使用するよう心がけて行きます。皆様、宜しくお願い致します<(_ _)>。



携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>

今月のお知らせ

10月19日(金)午後は学校健診のため、10月26日(金)午後と10月27日(土)は臨床眼科学会出席のため休診となります。ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い申し上げます<(_ _)>。

ステロイド点眼の強さ	当院で処方するステロイド点眼の種類
最弱	0.02%オドメール
弱	0.1%フルメトロン
中	0.02%ビジュアリン 0.02%サンテゾーン
強	0.1%リンデロン 0.1%リンデロンA 0.1%オルガドロン

FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科
 エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)

F-Vision

① **042**
(645)
0575
 ① **042**
(642)
2911